

## 15. コミュニケーションツールの紹介

### はじめに

パソコン、スマートフォン、タブレットなどが普及してきています。ただ、失語症や高次脳機能障害の方は文字入力の問題や新たに機械操作を覚えなければならないことで最初からあきらめてしまう方がいらっしゃいます。しかし実際にはどんどん操作は簡単になり、文字入力も様々な方法が使えてきているので実際に使ってみると想像以上に便利に使えることが多いものです。

スマートフォンを中心に実際の使い方の一例をご紹介します。

### ◆メール

文字入力補助機能の豊富なアプリ（“Simeji”など）を使うと文字入力が容易になり表現の幅が広がります。

#### 1) フリック（ガイド付き）

パソコンなどでの入力はどうしてもローマ字入力を中心に失語症の人にはハードルが高いのですが、フリック（ガイド付き）入力法を使うとかな文字をダイレクトに入力することができます。ガイド付きを使うとより探しやすいくなります。50音順に表になっているよりも探しやすいと思います。

#### 2) 定型文 仮名文字操作が困難な人には定型文を作ってそれを組み合わせることで文章を構成することも出来ます。あらかじめ“ローカル辞書”などの辞書機能に単語もしくは文レベルで登録しておきます。

たとえば「い」と押せば「いつもお世話になっております」が出てくるようにしておくことなどが可能です。

#### 3) 手書き文字入力 漢字はわかっているが、仮名変換出来ない場合などには手書きの文字を認識してくれるという機能があります。

機種によっては最初からその機能が入っているスマートフォンもあるのですが、アプリ（Notesなど）をダウンロードすることで使えます。

#### 4) 音声入力

最近では認識率が上がっているので少し長い文章でもきれいに聞き取って文字に変換してくれます。

ある程度言葉が言える人ならば実用性は高いです。文字入力がおっくうな人や目が見えにくくても文字入力出来ない人などにも使えます。

- 5) 顔文字、絵文字 豊富な顔文字や絵文字が簡単にキーボードから選ぶことが出来るので、文字を書けなくてもこれらをうまく使えば思いを伝えることが出来ます。

### ◆ライン(LINE)

最近ではメールがわりに使う人が増えてきています。メールの時と同じく文字補助機能を使って文字入力が可能ですが、ラインはさらに以下の特徴があり失語症の人でもコミュニケーション可能なことが増えてきます。

- 1) スタンプ機能 ちょっとしたメッセージとそれに合った絵になっているのでスタンプだけでもメッセージを届けることが出来ます。

2) 写真

メールのように添付という作業がない分簡単に写真のやりとりが出来るのでその場の状況や風景などを相手に知らせることが出来ます。

- 3) ボイスメッセージ 声のメッセージを送ることが出来、相手にそれを再生して聞いてもらうという留守番電話様の使い方も出来ます。その時の状況に合わせてメッセージだけでなく、歌や音などを送れます

### ◆ニュース

ニュースアプリ（“スマートニュース”、“Yahoo!ニュース”など）をダウンロードすると、時間を決めて自動で配信してくれるサービスがあります。それを使うとクリックするだけで最新のニュースを見ることが出来ます。

失語症の方でその文章を読んでも意味がわかりにくい人は、以下の方法があります。1) 動画を中心に見る

大きなニュースでテレビでも扱われたような話題はテレビで放送されたものがネットの中に存在することが結構あり、それをクリックすると音と映像で流れるので文字だけ読むより理解はしやすくなります。

## 2) 読みあげ機能を使う

“ウェブ読み上げ”などのアプリをダウンロードしておく、スマートフォンの中の読み上げ機能を有効にしておくなどがあります。

### ◆日記

写真をとるだけで日記として記録されるアプリ（“瞬間日記”など）を使って、気軽に日記や旅行の思い出を語るためのツールとして使えます。

### ◆メモ

文字入力に関しては上記の入力方法を使いますが、それ以外に写真に撮ることでメモ代わりにするのも使っています。

上記“瞬間日記”は、時間軸での検索が容易なので、たとえば買い物に行くときに冷蔵庫の中身の写真を撮っておいて、冷蔵庫の中身と照らし合わせて買い物するなど…。言葉での記憶の代償が出来ない患者さんには有効です。もちろん記憶障害の患者さんにも。

### ◆地図

地図アプリをひとつダウンロードしておく場所の情報などは、失語症の人でも地図で示せば良いだけなので使えます。

### ◆スケジュール管理

手書きなどに比べて簡単にスケジュール登録が出来ます。予定内容入力は、①あらかじめ登録しておいた定型語、②絵文字やスタンプなどをクリックするだけでも入力可能なものもあります。失語症が重度であっても自分でスケジュール管理が可能です。また、アプリによってはその日の予定をスマホをたちあげるたびに表示されるものもあるので記憶の代償手段として有効です。

### ◆コミュニケーション支援アプリ

“こえとら”

聴覚障害や失語症の人のコミュニケーション支援として開発されたアプリがあります。次のことが出来るようです。

①音声を文字に変換してくれる

- ②入力した文字を読み上げてくれる
- ③地図もそのアプリの中に入っておりすぐに立ち上がる
- ④定型文が会話帳としてたくさん入っており、それをクリックすると読み上げてくれる。
- ⑤チャット機能を使って会話ができる。

などで、タブレットなどで使うとより見やすく実用的かもしれません。

#### ★その他のコミュニケーション支援アプリ

〈Android 携帯用・障害のある人に便利なアプリ一覧〉

<http://www.tokyo-itcenter.com/700link/sm-and1.html>

〈iPhone、iPad 用・障害のある人に便利なアプリ一覧〉

<http://www.tokyo-itcenter.com/700link/sm-iphon4.html>

こちらの原稿は、大阪医療センター 古澤三千代先生に書いていただきました。